

# 職場環境づくりに意見

県男女共生センターと  
県建設業協会は二十六  
日、女性が建設・土木業  
界で働きやすい環境づく  
りについて考える初のイ  
ベント「ふくしま女性活  
躍応援事業くけんせつ・  
どぼく女子のいま、未来  
く」を二本松市のセンタ  
ーで開いた。

## 二本松で初のイベント



講演する藤さん

# けんせつ・どぼく女子応援



建設・土木業界で働く際の疑問点などを話し合った座談会

。二部制で一部は日経BP総合研究所副所長の藤幸子さんが男女ともに働きやすい社会や職場づくりをテーマに講演し、女性が活躍し

て成功している会社の事例を紹介した。二部は座談会で県内の高校生や大学生、専門学生約三十人が数人ずつのグループに分か

れ、建設・土木業界で働く際の疑問点などを話し合った。業界で活躍している女性から「職場の男性はさっぱりして協力的。心配しないで建設・土木業界に飛び込んでほしい」と助言を受けた。土木技術者女性の会副会長の時弘みどりさんが基調講演し、業界の仕事内容や会の活動について説明した。

協会によると、協会に加盟する県内の土木技術者約六千五百五十人のうち、女性は約百八十人で全体の2・7%にとどまる。性別による役割分担意識が根強く残っていることが背景にあるとみて、女性が活躍している事例を紹介する機会を設けようとして企画した。





建設・土木業界で活躍する女性と就職希望者が意見を交わした座談会

# どぼく女子志望者応援

## 現役と高校生が意見交換

建設・土木の現場で活躍したい女性を応援する講演会と座談会「けんせつ・どぼく女子のいま、未来」は26日、二本松市の県男女共生センターで開かれ、第一線で活躍する女性と就職希望の県内の女子高校生が意見を交わした。同センター、県建設業協会の主催。

5グループに分かれての座談会では、参加者からの「（男性との）力の差がついてしまう」「結婚、出産後も働けるのか」などの問いに対し、土木技術者女性の会副会長の時弘みどりさん（清水建設）ら5人が助

言。アドバイザーは成功事例を踏まえ「いろんな経験を無駄にしない人生を送って」「心配しないで業界に飛び込んでほしい」などと励ました。

座談会に先立ち、日経BPヒット総合研究所長の麓幸子さんが「けんせつ・どぼく女子」が輝く未来のために」と題して講演。「男性管理職の意識変容を促し、女性に成長機会を与える上司を増やすことが望まれる」などと述べた。



# 女性が活躍する業界に

## 県建設業協会

### 県と共催で 学生らが意見交換 理解促進事業



女性技術者と女子学生によるグループワーク(上)と講演する麓所長



大が期待できる。県内の建設業界もこの波に乗って女性活躍を進めてほしいと呼びかけた。

優秀な人材を確保する上では、県内の建設関係学科で学ぶ女子生徒の多くが建設業界に就職していない現状を指摘。「建設業は危ないから女性は無理」という古い固定観念を捨て、改善する仕組みを関係者が連携して構築するよう求めた。「女性活躍の推進は、女性活躍を切り口、突破口とした経営革新。女性が活躍できないのは企業に課題があり、その課題を見え化し解決することで経営革新につながる」と「男性を含め、多くの企業のマジョリティ(大多数)は時間制約のある人。働き方改革を進めて企業力ルチャーを刷新する必要がある」とも述べた。

課題には「結婚・出産後の就業継続(ヨコの課題)」「育成・登用、昇進(タテの課題)」を挙げ、ヨコの課題の対策にはワークショップバランス(両

建設業が魅力的でやりがいのある仕事だと理解する機会とした」と述べ、女性が働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む考えを示した。来賓の石井宏明東北地方整備局福島河川国道事務所長、鈴木千賀子福島労働局雇用環境・均等室長が祝辞を述べた。

県建設業協会(小野利廣会長)と県青少年育成男女共生推進機構県男女共生センターは26日、二本松市の同センターで、ふくしま女性応援活躍事業「けんせつ・どぼく女子のいま、未来」を開いた。麓幸子日経BPヒツト総合研究所長・執行役員が「けんせつ・どぼく女子」が輝く未来のために」をテーマに講演したほか、建設業界の第一線で活躍する女性技術者と、建設関係学科で学ぶ女子高校生・大学生が意見交換した。

少子高齢化・人口減少

社会的進展に伴う労働力不足を背景に、県が女性の活躍を積極的に推進する中、女性が建設業界で働くことへの理解を深めるとともに、女性技術者のネットワーク形成を促進しようと初めて開催した。県の共催、東北地方整備局、福島労働局、県建設産業団体連合会、福島建設工業新聞社などの後援。

小野会長は「建設業が危機管理産業としての役割を果たすためには女性の力が重要。講演会、座談会を、男女ともに活躍できる環境を共に考え、獲得力のアップ、受注拡大が期待できる。県内の建設業界もこの波に乗って女性活躍を進めてほしいと呼びかけた。」

優秀な人材を確保する上では、県内の建設関係学科で学ぶ女子生徒の多くが建設業界に就職していない現状を指摘。「建設業は危ないから女性は無理」という古い固定観念を捨て、改善する仕組みを関係者が連携して構築するよう求めた。「女性活躍の推進は、女性活躍を切り口、突破口とした経営革新。女性が活躍できないのは企業に課題があり、その課題を見え化し解決することで経営革新につながる」と「男性を含め、多くの企業のマジョリティ(大多数)は時間制約のある人。働き方改革を進めて企業力ルチャーを刷新する必要がある」とも述べた。

課題には「結婚・出産後の就業継続(ヨコの課題)」「育成・登用、昇進(タテの課題)」を挙げ、ヨコの課題の対策にはワークショップバランス(両